

に、八坂は昔此の邊り荒地にて、寶幢寺坂脇なる諸寺院の地は、小立野山崎山の尾崎にて、そのかみ木樵の通路幾筋も付きたりしゆゑ、八坂の名あるならん。龜尾記にも、八坂は永福寺邊より材木町へ出づる間の惣名にして、敢て一坂に限るの名に非ずといへり。小立野の傳説に云ふ。往古は小立野山の尾崎三つあり。一の尾は二の尾、三の尾と呼べり。一の尾は馬坂なり。二の尾は八坂なり。三の尾は城地なり。中にも二の尾なる八坂邊は、其の尾崎甚だ長く、材木町の地邊まで連続せしかど、追々平均なし、今の如く成りたり。といへり。按ずるに、天台宗最勝寺山來書に、慶長十八年八坂に寺建立之處、寛永十九年八坂山崩にて寺破損に付、小立野に替地拜領仕處、寛文九年寶圓寺造營用地に被召上、卯辰山にて替地賜之。と見ゆ、此の後も八坂山崩にて、鶴林寺の客殿を毀け、或は松山寺の露地を埋むなどの事折々ありと。されば其の以前のさまおもひやられけり。

○八坂地福寺跡

漸得雜記に載せたる加州金澤三十三所觀音西國順禮歌に、

七番地福寺。後の世のたねをまき置地福寺ややがてさとの花も開かん
また東順禮歌に、
廿一番持福寺。さきの世のたねを我身に持福寺やほとけの御名を聞くぞ嬉しき

右西國順禮歌なる地福寺は、長樂寺・法然寺の次に載せたり。そのかみ新堅町にありしかど、後八坂へ移轉し、八坂の地福寺として修驗宗山伏なりしかど、明治元年に復飾して神職と成り、地福寺の寺號を廢し、金峰守人と改稱し、無格社の神祠を此の地に造立して、今に寶幢寺坂の下なる路傍にあり。

○寶幢院跡

延寶の金澤圖に、寶幢寺のがけ下に寶幢院の寺地を記載し、其の隣地を松山寺とあり。按ずるに、右寶幢院の寺地は、今寶幢寺坂の道脇にて、松山寺の門内なる地也。寶幢院は何宗の寺院なるか未だ詳かならず。後其の寺地を松山寺へ合併し、松山寺の門内となしたる由なれど、今松山寺に其の傳言絶えてなしといへり。

○圓通山松山寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、元和三年檀越横山山城守寺屋敷拜領被致、爲菩提所寺建立、融山和尚を請じ開山とす。とあり。或は云ふ。當寺は丹波國圓通寺の末にて、開山融山和尚は横山山城守長知の親類なり。故に長知一寺を創立し、融山和尚を請じ開祖とすと。

又龜尾記に云ふ。河北郡上田上村に、松山寺の寺跡并開山の墳墓あり。今八坂松山寺の舊地也。とあり。今按ずるに、上田上村の鈴見村との地堺に、ミンニク山と云ふ地あり。此の地に松山寺開山の墳墓あり。此の地の事なるべし。一

説に、横山氏に此の寺創立の頃は、材木町の裏なる横山下邸、今の横山町二番丁に在りしなり。今も松山寺の舊地とて、梅の大木ありて古墳二つ残り、從來毎年盆中燈明を備へたり。此の地より後八坂へ移轉すといへり。又横山元家士に、松山左衛門とて同姓三軒あり。共に松山寺の檀下也。松山寺の寺號は是に依りて也といへり。但し右傳説は非也。松山寺の寺號は、横山氏の元祖半喜長隆、天正十一年四月廿一日於江州志津、獄討死、法號松山峰祝居士と云

ふ。其の子山城守長知父の菩提所として建立、故に松山寺と號せるもの也。

○塔頭榮壽院

松山寺由來書に云ふ。元和五年横山山城守内室三回忌に付き、松山寺屋敷内に更に一寺建立、榮壽院と號す。と。長知室は前田源峰の妹にして、元和三年四月十一日歿し、法號無量院年室榮壽大姉といへり。其の寺地は松山寺の向うにて、爰に佛閣ありしかど、明治六年無檀無住の寺院廢止の官令に據りて、佛閣を破却し、今地所墳墓を残すのみ。

○雲松山鶴林寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺元來大乘寺三代明峰和尚之法子大智和尚之開基之地者、當國石川郡吉野村に而、則伽藍之石場等于今殘有之。然處祇陀寺十八代の住持安説長老、改明峰派爲天真派、改寺號爲大安寺、三十四年茂誤來る處に、大安寺二代融室長老、先師之誤笑止に存し、及遷化之砌僧録中に遂披露、古來之通祇陀寺に可相改旨、後住に申置に付、其段後住披露に及申節、右從天真派何角及出入。其趣微妙公被開召上先之兩派兩寺號共に